

令和6年度 江戸川区立第二葛西小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	じょうぶな子 思いやりのある子 考える子 やりぬく子 *重点：自ら進んで取り組む		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	保護者・地域の理解と協力を得て、子どもたちに確かな力を育み、信頼と誇りのもてる学校 自分から進んで確かな学力、豊かな心、健やかな身体を身に付け高めようとする子ども より質の高い授業、教育活動をめざし、子どもに寄り添い、子どもの喜びや悲しみを自分の喜びや悲しみにできる教師
前年度までの本校の現状	成果 <ul style="list-style-type: none"> ・素直で思いやりのある子どもたちが多い ・安心で安全な学校づくりに向けた取組を進めることができた ・積極的な情報発信に努めることができた ・教職員が連携・協力しながら教育活動、学校運営を展開することができた 	課題 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の課題に応じて基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた取組を充実させる ・読書活動の充実を進める ・不登校や配慮が必要な児童等への対応をより組織的に取り組んでいく ・学校と家庭との連携・協働をより一層推進する ・児童数、学級数増加への対応を適切に進める 		

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己(学校)評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己(学校)評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○自ら進んで学ぶ態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習、教科担任制、交換授業等の実施 ・1人1台端末の効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで学習しようとしているという児童90%以上 ・授業の工夫がされているという教員90%以上 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業がわかりやすいという児童は91% ・授業の工夫がされているという教員は89% ・教科担任制をはじめ教員が連携した授業が進んでいる 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの子どもたちが教職員の工夫や努力を感じているということを評価したい ・チームワークも大切にながら教育の充実に取り組んでほしい 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・やる気をもって授業に取り組んでいるという児童は90% ・授業が工夫されているという教員は90% ・子ども主体となるような授業の工夫がみられている 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・やる気があるという子どもが9割いることは評価したい ・たくさん進んでいくことが有効な手立ての一つであると思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別指導や教科担任、交換授業などをさらに推進する ・学ぶ内容や学び方子どもが決めたり選んだりする取組を充実する
	○基礎学力及び学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・区、国の学力調査の活用 ・全校一斉朝学習、放課後補習の実施 ・幼・保、中との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な力を身に付けているという保護者85%以上 ・学習規律が徹底されているという教員85%以上 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強がわかるようにがんばっている児童は82% ・学習規律が徹底されているという教員は77% ・学力調査の結果は向上傾向であった 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でがんばろうとする意欲を育てることはなかなか難しいと思うが、引き続き取り組んでほしい ・学力調査等の結果に表れたということは評価したい 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な力を身に付けているという保護者は82% ・学習規律が徹底されているという教員は90% ・課題のある層の引き上げが課題である 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・やるべきことがたくさんあるようだが、子どもたちが「やらされている」とならないような工夫があるとよい ・家庭へのはたらきかけもできる形で進めてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をもって調査に臨むなどの取組を進める ・放課後補習に自習の要素を加えるなど自ら意欲の向上に向けた手立てを講じる
	○読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学習（調べる学習）の推進 ・朝読書及び毎週30分間の読書活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・本をよく読むという児童65%以上 ・読書科の学習が計画的に行われているという教員90%以上 	C	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・本をよく読むという児童は53% ・読書活動が充実しているという教員は86% ・夏に調べる学習に取り組んだ児童も多い 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけのほたらきかけ、取組などでは限界があるのではないかと ・家庭、地域の取組や大人の姿勢も大きく影響するのでは 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本をよく読むという児童は60% ・読書科が計画的に行われているという教員は98% ・読む機会を設定すると熱心に読むが、自ら進んで課題 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの大切さはわかるが、活字を読むことも大切だと考える サテライトの地域図書館の活用も固定の人以上に広がるとういが 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書や毎週30分の読書時間、PTAボランティアとの連携などの改善・充実を促す ・調べる学習を推進する
体力の向上	○自らすすんで体力を高めようとする態度・意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週30分間の全校運動遊び・元気アップタイムの実施 ・1人1台端末の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力を高めようとしているという児童90%以上 ・体力向上に向けた活動が充実しているという教員85%以上 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運動をがんばっているという児童は85% ・体力向上の活動が充実しているという教員は95% ・計画に沿って取組が順調に進んでいる 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・運動できる場や機会がどうしても限られたり個人によって大きく異なったりする ・学校としてのいい取組は評価したい 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体力を高めようとしているという児童は87% ・体力向上の活動が充実しているという教員は100% ・授業で端末を活用することが増えている 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、家庭によって体を動かす機会はかなり異なっていると思われる ・この人数とこの施設の中で何ができるか 学校だけでは難しいかもしれない 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をもって体力調査に臨むなどの取組を充実する ・学級増に対応しつつ、体育授業のさらなる質の向上を進めたい
	○自らすすんで健康・安全な生活を送る力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の健康にかかわる取組の推進 ・多彩な給食の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に気を付けているという児童90%以上 ・保健指導が適切だという教員90%以上 	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全に気を付けているという児童は90% ・保健指導が適切だという教員は100% ・大きな事故等はない 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな問題や事故がなく学校が運営されていることに安心している ・家庭教育を補っていただいている部分が多くあると思う 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に気を付けているという児童は90% ・保健指導が適切だという教員は100% ・歯の健康にかかわる取組など計画的に進めた 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが元気に毎日を過ごしていることが何よみである ・食材が高騰する中、充実した給食が提供されていると感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き重大事故0をめざす ・歯の健康をはじめとする取組を推進し、家庭への発信にも努める
教育の推進 共生社会の実現に向けた推進	○交流・共同学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・おおぞら学級の指導の充実 ・通常の学級とおおぞら学級の多様な交流・共同学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な交流・共同学習が進められているという教員80%以上 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な交流・共同学習が進められているという教員は95% ・特別支援学級の児童が通常の学級の授業に参加する例が大幅に増えた 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが仲よく、元気に過ごしていることとらえている ・こうした取組をさらに継続・発展させてほしい 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・図工や算数など教科の学習において通常の学級の子どもたちと共に学ぶ子どもが増えた おおぞら学級とのかわりがあり自然なものになりつつある 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・おおぞら学級の子どもたちのびび生活していると思う ・さまざまな交流が二葛西小の特色の一つになってくるとよいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のニーズに応じて各教科等での交流、共同をさらに進める ・教職員間の交流を促進する
	○個に応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策委員会を中心とした支援の充実 ・巡回指導をはじめとする人材、資源等の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する児童への支援が適切だという教員80%以上 	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する児童への支援が適切だという教員は98% ・組織的な対応を進めている 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任だけでなく教職員のチームワークで対応されていることを評価したい 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する児童への支援が適切だという教員は100% ・多様なスタッフと連携しながら支援を進めた 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮が必要な子どもたちは増えてきているのだろうか 教職員の努力だけに頼らないで済むようになるとうい 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の理解と支援の充実0、学校とかかわりのもてない児童0をめざす ・より組織的な支援を推進していく
不登校・いじめ	○健全育成の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・QUTテストや各種アンケートによる児童の実態把握とそれに基づく指導の充実 ・不登校対策委員会を中心とした支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや不登校解消の取組が組織的に進んでいるという教員90%以上 ・子どもは安心して学校に通っているという保護者95%以上 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや不登校解消の取組が組織的に進んでいるという教員は98% ・不登校児の別室指導やバーチャルの活用などさまざまな方策を進めている 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の子どもたちが学校など何らかの形でかわりをもちながら、自分らしく成長していくことを願っている ・子どもの人間関係は難しい側面もあると思うが、引き続きいいにに取り組んでほしい 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや不登校解消の取組が組織的に進んでいるという教員は90% ・子どもは安心して学校に通っているという保護者は92% ・一人一人に応じた多様な支援を進めた 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな学びの場が用意されていることがよくなった ・子どもたちのトラブルはいろいろあると思うが、大きないじめのような状況がないことが続いていくことが願っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、いじめの重大事態0、学校とかかわりのもてない児童0をめざす ・より組織的な支援を推進する

と対応の充	○豊かな心の育成	・委員会活動や係・当番活動、異学年交流などの充実 ・基本的な生活習慣の系統的な育成	・学校が楽しいという児童90%以上 ・当番や係をしっかりとやっているという児童90%以上	B	B	B	・学校が楽しいという児童は86% ・当番や係をしっかりとやっているという児童は92% ・自主性の育成を進めている	B	・自分の役割を自分の力で果たしていけるような子どもたちであってほしい ・学校が楽しいという子どもが100%であってほしい	B	・学校が楽しいという児童は89% 当番や係をしっかりとやっているという児童は93% ・自主性についてはさらに育成が必要である	B	・学校が楽しいと感じていない子どもの状況、原因を探る必要があるのではないか ・学校の取組を保護者等に積極的に情報発信する	・自分から進んで取り組む機会の充実を努める ・学校の取組を保護者等に積極的に情報発信する
	○自校の取組の積極的な発信	・学校のホームページの毎日の更新 ・全校保護者会、学校説明会等の充実	・学校の様子が変わりやすく伝えられているという保護者90%以上	A	A	A	・ホームページを毎日複数回更新し続けている ・ペーパーレスが定着し、オンラインでこまめに発信している	A	・ホームページをはじめ積極的に情報を発信していただいていることが、保護者の安心、地域の信頼につながっている	A	・学校の様子が変わりやすく伝えられているという保護者は95%	A	・子どもや学校の様子が伝えられていることが、学校の雰囲気や穏やかにしている。一緒の取組むようなこともあるとよい	・ホームページや公開などの充実を進めるとともに、双方向の交流、連携の実現に努める
学校（園）の地域・社会に開かれたの実現	○安心・安全な学校づくりの推進	・さまざまな災害等を想定した訓練の実施 ・食物アレルギーへの対応を含めた事故防止の徹底	・安全に気を付けて生活しているという児童90%以上 防災、防犯等の取組が適切に行われているという保護者90%以上	A	A	B	・安全に気を付けて生活しているという児童は91% ・さまざまな訓練を計画的に進めている ・アレルギー対応を含め大きな事故は起きていない	A	・自分の身体、命を自分で守る力を育てるという学校の方針は、現代においてとても大切である ・地域との連携がさらに進んでいくことを期待する	A	・安全に気を付けて生活しているという児童は90%。防災、防犯等の取組が適切に行われているという保護者85% ・アレルギー対応を含め大きな事故は防止することができた	A	・学校の防災、安全への取組は適切に進められていると思う ・地域の防災拠点としての学校のあり方については課題がとても多い 地域の問題ではあるが学校の協力をお願いしたい	・多様な訓練、防犯・防災教育を推進し、子どもたちの意識、実践力を高める ・地域と連携した避難所運営に向けた体制の整備に努めていく
	○家庭、地域とともに子どもを育てる教育の推進	・幼、保、中との多様な交流の充実 ・ふるさと葛西、江戸川区について学ぶ機会の充実 ・PTAやおやじの会によるイベントの再開・充実	・地域や保護者等との連携が進められているという教員80%以上	A	A	A	・地域や保護者等との連携が進められているという教員は100% ・PTA、おやじの会の活動も積極的に展開されている	A	・PTAやおやじの会の精力的な取組を高く評価したい ・さまざまな考え方はあるが、子どもたちの笑顔を増やすという思いはみなさんと共有したい	A	・幼稚園、保育園や中学校との交流を計画的に進めた ・海苔すき体験など葛西を学ぶ貴会の設定できた ・PTA、おやじの会の活動を喜んでいる子どもが多い	A	・地域の力を活用してほしい。学校の負担が軽くなるような工夫しながら協力したい ・PTA、おやじの会の方々の精力的な活動に感謝する	・PTA、おやじの会をはじめ地域とも、子どもたちをより豊かに育てるという目標を共有し、取組の充実にも努めていく
教育の特色ある展開	○教員の資質・能力の向上	・教員一人一人のニーズに応じた研究・研修の推進 ・若手教員の組織的な育成	・資質・能力の向上に努めているという教員90%以上	A	A	B	・資質・能力の向上に努めているという教員は100% ・計画的な育成を進めている	A	・若い教職員も多い中、育成の負担もあると思うが、重要なことだと受け止めている	A	・資質能力の向上に努めているという教員は100% ・研修等を計画的に進めた	A	・実践的な研修が大切であると考え、学び合う風土をさらに作ってほしい	・一人一人の教員の課題に応じた研修等を推進していく
	○働き方改革の推進	・会議等の効率化、組織改革の一層の推進 ・ペーパーレス化の一層の推進	・全教職員の月残業時間50時間以下 ・時間外勤務の削減に努めているという教員90%以上	A	A	B	・時間外勤務の削減に努めている教員は90% ・残業時間は削減傾向にである ・ペーパーレス化は定着した	A	・教職員の負担軽減は必要なことだと認識している ・家庭、地域との連携のあり方という視点からも働き方改革を考えていきたい	A	・1月には全教職員の月残業時間が45時間以下となった。時間外勤務の削減に努めているという教員97% ・残業時間は減少が続いている	A	・教職員が子どもに向き合うことを中心に、その他の負担を軽減していくことは大切である ・様々なスタッフの効果的な活用もさらに進めてほしい	・会議、打合せ等の効率化をさらに推進する ・全教職員の月残業時間45時間以下をめざす